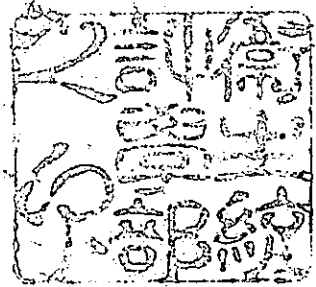


率及保健調査資料 第二輯

大正七年以降九年に至る

従業員の疾病調査

東京市電気局調査課

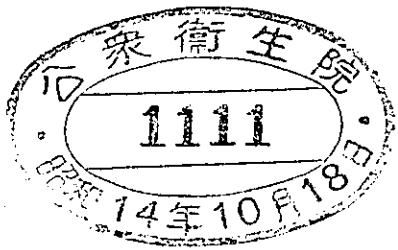
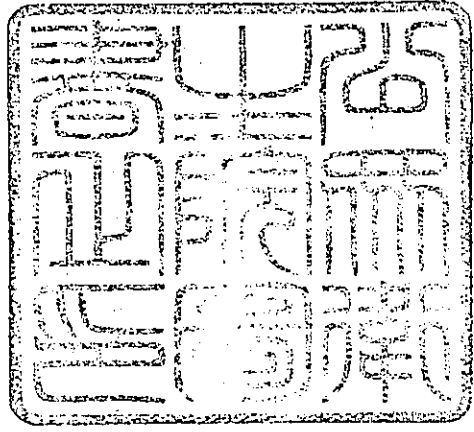


国立保健医療科学院蔵書



10012134

58
56



序

能率及び保健問題の調査資料第二輯として、此の報告を發表する。第一輯は、大正十年一月より同十二月に至る滿一年間の本電氣局従業員の疾病調査報告であつたが、これは大正七年初以降同九年末に至る。滿三年間の同種報告である。

發表の順序が前後したやうに見えるが此の第二輯の分の大半は、第一輯以前に既に謄寫版を以て、臨機に發表し來たもので、今度之を完全にして印刷に附したのである。但、その内容上に、一は以前の錯誤を改訂し、一は第一輯と其の體裁を一致せしめる爲に、一大刷新を行つた。

又、何故に第一輯と第二輯とを總括して、一篇としなかつたかといふに、それは調査に用ゐたる基礎的資料との關係である。何となれば、此の統計資料は當電氣局の共濟組合醫務室より得てゐるが、同室に於いては大正七年から同九年迄の各種病類の分類法と大正十年以後の夫れとは、その細目上に多少の相違があつて、今即座にこの兩種を一括することは困難なる事業となつたのである。されば我が電氣局の調査事業中に、その基礎的調査の整理すら、未だ出來てゐなかつた、此の種のものとしては、取敢へず第一、第二の兩輯に分つて、一まづ發表するの外はない。

而て更に一步を進めて、右の兩輯の總括や、年齢、家庭、特殊疾患等保健及能率上に必要なる一切の事

項は、第三輯以下としてその研究を發表すべく、今や直ちにその調査に着手した。

尤も第一輯と第二輯との比較論や、又これによつて知り得たる保健上の標識は、本報告の卷末、第十三の部に通篇總括として、その大略を掲げたから、讀者の一讀を乞ふ。

終りに此の調査は、川口課長の熱心なる指導と、當該係り一同、即、菊地藤太郎、福富順治の兩事務員及び杉山、後藤、松本の各雇員の誠意ある努力によりて成りしことを、此の機會に感謝する。

大正十二年六月一日

東京市電氣局調査課、能率調査室にて

囑託、醫學士 高峰博

大正七年初より 同九年末に至る 従業員の疾病調査目次

其の一、傳染病及び全身病の部

- 一、傳染病及び全身病の種別.....一
- 二、傳染病及び全身病患者と總従業員及び總罹病者との關係.....三
 - 一、總従業員との關係.....三
 - 二、總罹病者との關係.....三
 - 三、以上の通覽.....四
- 三、傳染病及び全身病患者と月次との關係.....五
 - 一、總従業員との關係.....五
 - 二、右の各職業別との關係.....五
 - 三、全罹病従業員との關係.....七
 - 四、右の各職業別との關係.....七
- 四、總 結 論.....八

其の二、神経系統疾病の部

- 一、神経系統疾患の種別……………一一
- 二、神経系統患者と總従業員及び總罹患者との關係……………一二
- 一、總従業員との關係……………一二
- 二、總罹患者との關係……………一二
- 三、以上二項の通覽……………一三
- 三、神経系統疾患と月次との關係……………一三
- 一、總従業員との關係……………一四
- 二、右の各職業別との關係……………一四
- 三、全罹病従業員との關係……………一六
- 四、右の各職業別との關係……………一六
- 四、總 結 論……………一一

其の三、呼吸器病の部

- 一、呼吸器系統疾患の種別……………一九
- 二、呼吸器系統患者と總従業員及び總罹患者との關係……………二〇
- 一、總従業員との關係……………二〇
- 二、總罹患者との關係……………二一
- 三、呼吸器系統疾患と月次との關係……………二二
- 一、總従業員との關係……………二二
- 二、右の各職業別との關係……………二三
- 三、全罹病従業員との關係……………二四
- 四、右の各職業別との關係……………二四
- 四、總 結 論……………二五

其の四、循環器病の部

- 一、循環器病の種別……………二七
- 二、循環器病と總従業員及び總罹患者との關係……………二八
- 一、總従業員との關係……………二八
- 二、總罹患者との關係……………二八

三、循環器病者と月次との関係……………二九

一、總従業員との關係……………二九

二、右の各職業別との關係……………二九

三、全罹病従業員との關係……………三〇

四、右の各職業別との關係……………三一

四、總 結 論……………三一

其の五、營養器病の部……………三三

一、營養器系統疾患の種別……………三三

二、營養器系統患者と従業員及び總罹病者との關係……………三五

一、總従業員との關係……………三五

二、總罹病者との關係……………三六

三、營養器系統疾患と月次との關係……………三六

一、總従業員との關係……………三六

二、右の各職業別との關係……………三七

三、全罹病従業員との關係……………三八

四、右の各職業別との關係……………三八

四、總 結 論……………四〇

其の六、泌尿生殖器病の部……………四一

一、泌尿器病及び生殖器病の種別……………四一

二、泌尿生殖器患者と總従業員との關係……………四二

一、總従業員との關係……………四二

二、總罹病者との關係……………四二

三、泌尿器病及び生殖器病と月次との關係……………四三

一、總従業員との關係……………四三

二、右の各職業別との關係……………四三

三、全罹病従業員との關係……………四五

四、右の各職業別との關係……………四五

四、總 結 論……………四六

其の七、花柳病の部

六

- 一、はしがき.....四七
- 二、花柳病患者の種類.....四八
- 三、花柳病者と總従業員及び總罹病者との關係.....四九
- 一、總従業員との關係.....四九
- 二、總罹病者との關係.....五〇
- 三、以上通約.....五〇
- 四、花柳病患者と月次との關係.....五一
- 一、總従業員との關係.....五一
- 二、右の各職業別との關係.....五一
- 三、全罹病従業員との關係.....五三
- 四、右の各職業別との關係.....五三
- 五、總結論.....五四

其の八、眼病の部

五七

- 一、眼病の種類.....五七
- 二、眼病患者と總従業員及び總罹病者との關係.....五七
- 一、總従業員との關係.....五八
- 二、總罹病者との關係.....五八
- 三、以上の要約.....五八
- 三、眼病と月次との關係.....五九
- 一、總従業員との關係.....五九
- 二、右の各職業別との關係.....六〇
- 三、全罹病従業員との關係.....六一
- 四、右の各職業別との關係.....六一
- 四、總結論.....六二

其の九、耳病の部

六五

- 一、耳病の種類.....六五
- 二、耳病患者と總従業員及び總罹病者との關係.....六五

七

- 一、總從業員との關係……………六五
- 二、總罹病者との關係……………六六
- 三、耳病と月次との關係……………六六
- 一、總從業員との關係……………六七
- 二、右の各職業別との關係……………六七
- 三、全罹病從業員との關係……………六八
- 四、右の各職業別との關係……………六八
- 四、總 結 論……………六九

其の十、外被病の部……………七一

- 一、外被病の種類……………七一
- 二、外被病患者と總從業員及び總罹病者との關係……………七一
- 一、總從業員との關係……………七二
- 二、總罹病者との關係……………七二
- 三、外被病と月次との關係……………七三

- 一、總從業員との關係……………七三
- 二、右の各職業別との關係……………七四
- 三、全罹病從業員との關係……………七五
- 四、右の各職業別との關係……………七五
- 四、總 結 論……………七六

其の十一、運動器病の部……………七九

- 一、運動器病の種類……………七九
- 二、運動器病者と總從業員及び總罹病者との關係……………八〇
- 一、總從業員との關係……………八〇
- 二、總罹病者との關係……………八〇
- 三、運動器病者と月次との關係……………八一
- 一、總從業員との關係……………八一
- 二、右の各職業別との關係……………八一
- 三、全罹病從業員との關係……………八二

四、右の各職業別との關係……………八三
 四、總 結 論……………八四

其の十二、外傷の部……………

一、外傷の種類……………八五
 二、外傷者と總従業員及び總罹病者との關係……………八五
 一、總従業員との關係……………八五
 二、總罹病者との關係……………八六
 三、外傷と月次との關係……………八六
 一、總従業員との關係……………八七
 二、右の各職業別との關係……………八七
 三、全罹病従業員との關係……………八八
 四、右の各職業別との關係……………八九
 四、總 結 論……………九〇

通 篇 總 括……………

九三
 一、十二の病類別……………九三
 (1) 兩輯共通の分……………九三
 (2) 前輯との比較……………九四
 二、患者發生の多寡より見たる三種の病類……………九四
 (1) 本調査に依りて得たる知見……………九四
 (2) 第一輯との比較……………九六
 三、職業と疾病と季節との關係……………九七
 (1) 職業の種類……………九七
 (2) 本輯に於いて明かにし得たる職業的關係……………九八
 四、通篇結論(第一輯と第二輯との兩篇に通ず)……………一〇一

附 表 目 次

第一表 大正七—九年に於ける當該病者比率表 (各篇末、計十二枚)
 第二表 大正七—九年に於ける全従業員に對する當該病者の萬分比率表 (各篇末、計十二枚)
 第三表 同上、圖表 (各篇末、計十二枚)

- 第四表 大正七—九年来に於ける全罹病者に對する當該病者の百分比率表 (各篇末、計十二枚)
- 第五表 同上、圖表 (各篇末、計十二枚)
- 第六表 大正七年来に於ける從業員、對、當該病者統計表 (各篇末、計十二枚)
- 第七表 大正八年来に於ける從業員、對、當該病者統計表 (各篇末、計十二枚)
- 第八表 大正九年来に於ける從業員、對、當該病者統計表 (各篇末、計十二枚)

大正七年初より
同九年末に至る 從業員の疾病調査 其の一 (傳染病及び全身病の部)

一、傳染病及び全身病の種別

東京市電氣局從業員に對する、共濟組合診療所の病類別表によりて、傳染病及全身病を左の如くに分類する。

- 1 麻 疹
- 2 腸 窒 扶 私
- 3 バラチブス
- 4 百 日 咳
- 5 實 扶 埴 里
- 6 マラリヤ
- 7 赤 痢
- 8 丹 毒
- 9 流行性感胃

- 10 流行性耳下腺炎
- 11 糖尿 病
- 12 脂肪過多症
- 13 脚 氣
- 14 癩
- 15 モルヒネ中毒
- 16 アルコール中毒
- 17 其の他の中毒
- 18 腺 病
- 19 白 血症
- 20 血 斑 病
- 21 感 胃

22 其の他の傳染病及全身病

而て此の調査報告書中第六表は、右の各病に對する精細なる統計であるから、これによりて、其の發生率の多寡を知るべく、其の大體に關しては、以下に論述しやうと思ふ（而て更に各特殊の疾病や其の年齢

別等に關する報告を索められる方は、此の次に第三輯として發表する報告書を参照せられよ）

二、傳染病及び全身病患者と總従業員及び總罹病者との關係

大正七年以降同九年に至る滿三年間の本病發生率は、大約左の如くである。（第一表参照）

其の一、總従業員との關係

- (一) 總従業員一萬人に對して、傳染病及全身病患者の比率は、三六・〇。
- (二) 之を職業別に見るときは、最高は職工で四〇・一、次は車掌の三八・八、それから運轉手が三七・九。
- (三) 最低率を有するものは工夫で、一六・八、其の上が雜役夫で二五・〇。
- (四) 總信號人中、本病者は三二・四。

其の二、總罹病者との關係

- (一) 總罹病者百人に對して、本病者存在の比率は、二三・一。
- (二) 職業別にすると、最高は職工で二五・六、次は工夫で二五・〇、其の次が運轉手と車掌とで夫れど二二・七及び二二・五。
- (三) 最低の罹病率を示してゐるのは、信號人で二〇・三、次が工夫の二〇・八。

其の三、以上の通覽

- (1) 之を通覽するに、常に傳染病及び全身病に對する罹病率の高きものは、職工及び乗務員たる運轉手と車掌とにして、又常に低きものは、工夫である。
- (2) 信號人に於いては、總従業員に對しても、比較的少いが、特に總罹病者に對して低率であるのは、此の職業の性質の然らしめる所と認められる。
- (3) 當電氣局の事業に關して門外漢たる人の中には、職工と工夫とを同一系統の労働者と思ひ做すかも知れないが實は其の然らざること、統計の示す通りにて、職工は群衆接觸の間に罹病すること多き傳染病に對する危険率の高きことは、同じく群衆中で従業する乗務員と同様であり、之に反して工夫や信號人は本病の如きに對しては甚、安全である。これ職工は、電氣局内の製作工場や、被服工場や印刷工場等の作業者であり、工夫といふのは道路上の架線工夫や、軌道工夫等の勞役者で、其の勞務上に多大の相違があるからである。

尙是の如き各作業上の特徴と疾病との關係は、此の基礎的調査報告を終りて後に發表することにする。

三、傳染病及び全身病患者と月次との關係

一、總従業員との關係

本病と月次との關係は(第二表及び第三表參照)

(一) 一般に本病は、初夏雨期に入りてより急増加して秋に至り、初冬と陽春好適の時機とには常に寡少である。

(二) 就中、其の最高は五月で、萬分の五〇・三。次は八月で四二・二。又最低は十一月で二六・七。次が三月で二七・二。

(三) 之を要するに、本病の發生形式は夏秋型にして、冬期に多少の高率を示すのは、主として流行性感胃に因るものと認められる。

二、右の各職業別との關係

(一) 之を職業別に見るときは、職工と車掌と運轉手とは、一群をなして罹病情態に類似の夏秋型共通曲線を示し、工夫は低率にして季節とは關係なき不定時型を呈し、他の信號人と雜役夫は相互に不共通なる無定型を示してゐる。

(二) 而て職工に於いては、罹病率の最も高きは五月で五六・一、次は八月で四九・六。最低率は三月で二八・一。

(三) 車掌に於いては、矢張り最高は五月で萬分の五二・五。次は八月で四三・七。最低は三月で二九・四。

(四) 運轉手に於ける最高率は五月の五五・九。最低率は十一月の二四・一。其の上が三月の三〇・七。

(五) 罹病率の低き工夫に於ける最高も、矢張り五月にて萬分の二三・四。次が十二月で二一・二。最低は三

月と十一月とで夫れぐ一〇・六及び一一・〇。

(六) 信號人と雜役夫とは互に相反する傾向を示す。即、雜役夫の罹病情態は低率夏秋型で就中、十月が最高にして萬分の四二・〇、最低は二月、四月で夫れぐ一四・六及び一四・八である。然るに信號人に於いては、不規則なる秋冬型にして、其の最高が十月及び十二月で夫れぐ五四・一及び五三・一。最低は四月及び五月で夫れぐ四・八及び一八・二である。是の如き二種の異なる傾向も、各其の職業に因る影響と認めねばならない。

(七) 右の六項を約して云へば、

- (1) 職工、運轉手、車掌の三種が夏秋型の共通性一群を示し、就中職工が最も危険である。
- (2) 工夫は本病に對して最も安全で季節とは格別に關係なし。
- (3) 信號人は不規則秋冬型、雜役夫は低率夏秋型で、相ひ反する傾向にある。

三、全罹病従業員との關係

全罹病者と傳染病及全身病者との關係は、**第四表及び第五表を參照あれ、之を概論するに、**

(一) 本病が各種の疾病中、比較的多く出るのは、冬期の十二月及び一、二の兩月とそれから初夏の五月とである。其の百分比は、最高が一月で二八・七、次が五月で二八・五、それから二月が二四・三、十二月が二三・一。

(二) 其の最低率を示すのは、十一月と三月とで夫れぐ一八・一及び一八・九、其の上が四月の一九・五。

(三) 但、右の如き高低差は比較的僅少にして、大體に於いては、各季を通じて傳染病及び全身病が同じ程度に存在すと言ひ得るが、併乍らさすが初夏と冬期とに目立つて變動の現れるのは、全く季節的關係と云はねばならぬ。

四、右の各職業別との關係

- (一) 何れの職業に於いても、略、同一形式を呈してゐるが獨り、信號人に於いてのみ、不規則なる無定型である。
- (二) 即、信號人に於いては、最高が八月で百分の三三・三、最低が四月で六・七。是の如く變動の懸隔が甚しきのみならず、季節の上にも定型が無い。但、その中にも春暖の頃には、概して本病者の少いことだけは確である。
- (三) 職工に於いては、各月を通じて本病者存在率が高いが、殊に五月は最高で、百分の三一・八、而て其の最低は、四月で二〇・〇。
- (四) 運轉手に於ける最高率は一月で百分の三一・八、次が五月で二八・七。其の最低は十一月で一六・〇、その上が九月の一九・一、それから三月及び四月の頃となる。

- (五) 車掌に於いては、最高が一月及び五月と十二月とで其の百分比は一月が二七・二、他の兩月は共に二六・三。最低は三月と四月とで夫れ一七・五及び一八・六である。
- (六) 之を要するに、本病發生の情態は、共通性を有する一群の定型と不規則性の一類(信號人)とありて、後者は無定型なれど、前者、即、車掌、運轉手、職工、工夫、雜役夫の五種は、何れも嚴冬時と初夏との兩期に、本病者が劇増する。

四、總 結 論

- (一) 職工、運轉手、車掌が傳染病及全身病に對する共通性の一類を成し、他の工夫、信號人、雜役夫が他の相互不共通性なる一群を成す。
- (二) 但、他の各種の疾病との割合を見る時は、著しく右の二群が接近し來りて、略、同一型式の曲線に近く。
- (三) 併作ら獨り信號人に於いてのみ、孰れの場合も、不規則なる罹病形式を其の特徴としてゐる。
- (四) 時季に於いては、各職業を通じて、夏季が最も高く、嚴冬期にも多少増率する。就中、初夏、雨季に入りし時に劇増し、しかも其の前の三月と四月とは、常に最低率に當る時であるから、人はともすると油斷すること多く當局者が保健上、最も注意を要する點である。

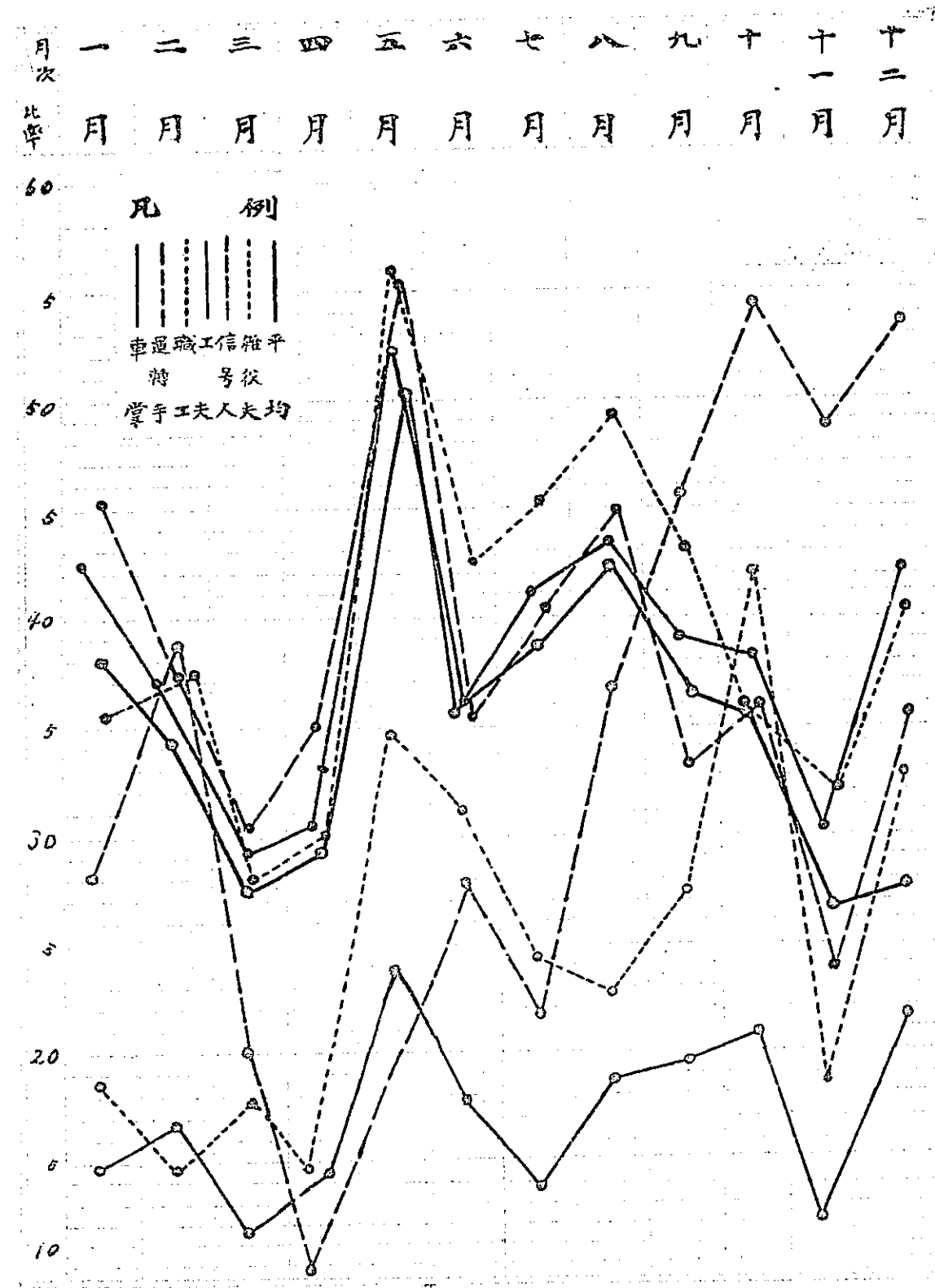
- (五) 職業上には、職工が本病に對する危険率最も高く工夫と信號人とは最も低い。但、上述の如く(第三項)信號人には無定型の不規則を一特徴とする故に、其の原因を、(1)採用上、(2)勤務上、(3)生活情態上の各方面から、更に精査を必要とする。
- (六) 之を要するに右の如く本病に於いては職業上と季節上との兩關係は明かに認められるが、尙、他のことに露されてゐない要素——生活情態や年齢や、環境や、加ふるにその勤務の情態等は、此の調査と關聯して、各種の疾病に對して行はねばならない。
- (七) 尙、委細の點は、上掲諸表及び第六表を参照せられよ。—— 以 上

第一表

自大正七年三箇年間従業員に對する傳染病及全身病患者比較表
至大正九年

區分	職別	年次		大正九年	計	平均
		大正七年	大正八年			
延 人 員	車 掌	1,007,431	1,147,750	1,419,331	3,574,512	1,191,504
	運 轉 手	728,032	826,790	1,050,322	2,605,144	868,381
	信 號 人	17,095	20,039	16,179	53,313	17,771
	職 工	552,493	737,395	855,281	2,145,169	715,056
	工 夫	249,529	268,281	328,202	846,012	282,004
	雜 役 夫	140,487	146,470	180,005	466,962	155,654
	其 の 他	22,689	21,987	147,431	192,107	64,036
	計	2,717,756	3,168,712	3,996,751	9,883,219	3,294,406
何 か の 疾 病 に 罹 り し 者 の 員	車 掌	19,316	19,944	21,875	61,635	20,545
	運 轉 手	14,222	14,042	15,282	43,576	14,525
	信 號 人	354	253	244	851	284
	職 工	10,407	11,235	11,886	33,528	11,176
	工 夫	2,204	1,803	2,812	6,819	2,273
	雜 役 夫	1,854	1,250	1,574	4,678	1,559
	其 の 他	209	267	2,824	3,300	1,100
	計	49,096	48,794	56,497	154,387	51,462
傳 染 病 及 延 全 身 病 員	車 掌	4,938	4,065	4,858	13,860	3,294
	運 轉 手	3,901	2,872	3,109	9,882	3,294
	信 號 人	115	37	21	173	58
	職 工	3,230	2,456	2,912	8,598	2,866
	工 夫	564	333	523	1,420	473
	雜 役 夫	534	294	340	1,168	389
	其 の 他	55	85	357	497	166
	計	13,337	10,141	12,120	35,598	11,866
從 業 員 對 傳 染 病 及 全 身 病 比	車 掌	49.0	35.4	34.2		38.8
	運 轉 手	53.6	34.7	29.6		37.9
	信 號 人	67.3	18.5	13.0		32.4
	職 工	58.5	33.5	34.0		40.1
	工 夫	22.6	12.4	15.9		16.8
	雜 役 夫	38.0	20.1	18.4		25.0
	其 の 他	24.2	38.7	24.2		25.9
	計	49.1	32.0	30.3		36.0
罹 病 者 對 傳 染 病 及 全 身 病 比	車 掌	24.9	20.4	22.2		22.5
	運 轉 手	27.3	20.5	20.3		22.7
	信 號 人	32.5	14.6	8.6		20.3
	職 工	31.0	21.9	24.5		25.6
	工 夫	25.6	18.5	23.6		20.8
	雜 役 夫	28.8	23.5	21.6		25.0
	其 の 他	26.3	21.8	12.6		15.1
	計	27.2	20.3	21.5		23.1

第三表 自五六年 傳染病及全身病對全從業員萬分比率表



一九五六年 傳染病及全身病對全從業員萬分比率表

月次	平均	雜工	信工	職工	運車	學徒
一月	45	55	35	40	50	15
二月	35	45	25	30	40	10
三月	30	40	20	25	35	5
四月	50	55	30	45	50	10
五月	55	60	35	50	55	15
六月	45	50	25	40	45	10
七月	50	55	30	45	50	15
八月	45	50	25	40	45	10
九月	55	60	35	50	55	15
十月	45	50	25	40	45	10
十一月	50	55	30	45	50	15
十二月	45	50	25	40	45	10

第四表 皇大正七年三箇年に於ける全患者の傳染病及全身病患者の百分比率表

職別	月別	月												計
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
車掌	全患者	4,410	4,186	4,714	4,530	5,758	5,103	6,002	5,986	5,477	5,021	4,967	5,461	61,635
	傳染病及全身病	1,198	962	824	843	1,516	1,047	1,248	1,350	1,203	1,257	978	1,434	13,860
運手	全患者	2,883	2,852	3,231	3,426	4,085	3,610	4,172	4,297	3,876	3,972	3,571	3,602	43,576
	傳染病及全身病	918	700	628	704	1,174	748	900	1,036	740	872	570	892	9,882
人	全患者	46	60	73	30	40	67	100	48	88	107	110	80	851
	傳染病及全身病	13	15	9	2	8	12	10	16	19	26	18	25	173
信託	全患者	28.3	25.0	12.3	6.7	25.0	17.4	10.0	33.3	21.6	24.3	16.4	31.3	20.3
	傳染病及全身病	1,966	2,063	2,232	2,449	2,954	2,943	3,252	3,395	3,390	3,137	2,846	2,851	33,528
職工	全患者	580	578	469	490	938	720	813	925	919	720	625	821	8,598
	傳染病及全身病	99.5	28.0	21.0	20.0	31.8	24.5	25.0	27.2	27.1	22.6	22.0	28.8	25.6
工夫	全患者	407	467	428	461	593	517	593	692	664	713	669	610	6,819
	傳染病及全身病	101	109	76	92	162	121	97	132	145	158	81	146	1,420
雑役	全患者	24.8	23.3	17.8	20.0	27.1	23.4	16.4	19.1	21.8	22.2	12.1	23.9	208
	傳染病及全身病	26.4	23.4	33.1	28.3	40.2	43.8	45.4	42.5	44.9	53.9	33.4	43.5	4,678
給仕	全患者	64	50	66	57	141	108	104	96	117	147	64	154	1,168
	傳染病及全身病	24.2	17.6	19.3	20.1	35.1	25.2	22.9	22.6	26.1	25.0	19.2	35.4	25.0
小使	全患者	29	5	29	19	15	21	38	76	18.4	13.5	16.8	11.9	338
	傳染病及全身病	3	1	11	6	1	4	2.6	1.6	2.1	1.4	9	2.7	12.2
備員	全患者	10.3	20.0	37.9	31.6	6.7	19.0	2.6	21.1	11.4	16.3	5.4	22.7	14.6
	傳染病及全身病	20	22	57	29	47	35	25	190	408	472	627	530	2,462
計	全患者	10,025	9,939	11,095	11,227	13,899	12,726	14,656	15,109	14,535	14,196	13,202	13,688	154,387
	傳染病及全身病	2,880	2,417	2,095	2,195	3,952	2,773	3,133	3,621	3,221	3,280	2,412	3,563	35,508
	百分	28.7	24.3	18.9	19.5	28.5	21.8	21.7	24.0	22.2	23.1	18.1	26.1	23.1

